

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【学校像】

「豊かな人間性を育み、社会に貢献できる青年を育成する」という建学の精神をもとにグローバル化・デジタル化する社会の中で求められる 21 世紀型教育を推進する。座学によって獲得した知識を柔軟に活用する思考力、多様な情報の中から課題を解決するための要素を読み取り、整理し、分析する力。様々な価値観を持つ人たちの意見を聴き合意形成を図る力を育成する。

【生徒像】

「気づく心」「考える力」「チャレンジ精神」を教育の 3 本柱とし、すべての教育活動を通して、次のような生徒を育成する。

- 社会的規律を尊重し、豊かな情操を身につけた品位ある生徒
- お互いの人権を尊重し、学校や地域社会の中で協力・共同できる生徒
- 自主的、自律的な学習態度で学力の向上をめざし、異文化に触れることによって、21 世紀を担う若者にふさわしい国際的な視野を持った生徒

2 中期的目標

各部・各学年で「基本的生活習慣の確立と大学進学実績の向上」という重点目標達成を目指して「部門活動計画」（部門目標シート）を作成し、成果目標の数値化を行い、その目標を達成するための具体的な行動計画を立てる。4 月に目標設定、11 月に進捗状況の報告、3 月に目標達成の結果と次年度への課題を校務会議、職員会議で発表し共通認識を図り課題を明確化していく。

※ 授業評価、クラス経営評価、保護者からの評価については、原則「プラス評価」－「マイナス評価」であらわされる「指数」となっています。したがって「60 指数以上」A、「20 指数以上」B、「20 指数以下」C と考えて評価・分析しています。

1 生徒指導を根幹に据えた学習指導と生徒のニーズに応えられる進路指導をめざします。

(1) 基本的生活習慣の確立

学力向上の基盤は「基本的生活習慣」の確立なくしてあり得ないという教育信念から引き続き「気づく心の育成」「チャレンジ精神」「思考力の育成」に努め、自己管理能力(自制心)を高めます。また、生徒を指導する教職員の資質を向上するために機会あるごとに啓発を行っていきます。

ア、社会人としては許されない「遅刻」の防止に自ら努める「自己管理能力を育成」し時間を守ることの大切さを自覚させていきます。

イ、いじめを許さない「学級」「学年」「学校」文化を作り出し、生徒全員が安心して登校し学習できる学級・学校を目指します。

ウ、社会人として巣立つにふさわしい服装・マナーの向上に努め保護者から信頼される教育環境を作り出します。

エ、SNS やメールの使用上のマナーを含め、相手の立場を踏まえた適切なコミュニケーションが図れるように指導します。

オ、教育裁判の事例を職員会議等で示して教職員の危機管理能力を高めていきます。

(2) 学力向上と進路実現

学力向上の基盤は、生徒の「自己管理能力の確立なくしてあり得ない」という教育信念から昨年度に引き続き、教科学習、講習等様々な教育活動を通して時間の使い方を学ばせるため 3 年目となる「学芸手帳」（バーチカルタイプ）の利用を促進し生活習慣を見直し時間の使い方の工夫から短期・中期・長期と計画的に学習活動(クラブ活動も含む)をする習慣を定着させていきます。

この「自己管理能力」を高める中で保護者・生徒の願いである「4 年制大学進学」という目標を実現できるように進路ガイダンスを行い、希望進路の発見・実現に寄与するため教育課程を編成(選択授業での対応や多様な講習の実施)するとともに「電子黒板」「i-pad」「スタディー・サプリ」「英語サプリ」を利用した授業や自学自習を推進し授業改善にもつなげていきます。

また、大学入試改革に備えて特に本校が力を入れている国際理解教育の推進のために英語 4 技能の育成を図るために分掌組織に「英語教育研究会」を立ち上げるとともに 1 年留学制度の整備充実を図り、子どもたちのニーズに応えます。3 年目となる看護コースについても子どもたちの希望進路の実現を図ります。

これらの進路指導の基盤となる教員の授業力を高めていくため「生徒の授業アンケート」（年 2 回）を基に教職員間の相互授業参観等を実施し、授業内容の点検や教授法の改善に取り組みます。また、英語教員の力量を伸ばすための方策を実施します。

ア、教育のデジタル化に対応し「電子黒板」「i-pad」「スタディーサプリ」「英語サプリ」の利用促進を行い授業改善に努めます。

イ、グローバル化に対応した教育活動を展開するため英語教育の改善と国際理解教育の推進をさらに図っていきます。

ウ、教員に対する生徒の授業アンケートを実施し「自己の授業の振り返り」を行わせ改善点の自己点検を行うとともに授業力向上のための相互授業参観を行い「授業に対する信頼度」「学習効果への実感度」等を伸ばし生徒の満足度を高めます。

エ、自ら課題を見つけ能動的に学ぶ習慣作りの一環として漢検・英検・数検などの資格試験受験者を増やしていきます。

オ、生徒の多様なニーズに応えるために教育課程の編成、多様な講習の機会を設定し進路指導を充実させていきます。

(3) 社会に貢献できる資質の育成

21 世紀は「正解のない時代」と言われています。この時代を生き抜いていかなければならない子どもたちにとって必要な資質は、さまざまな価値観を持つ人たちの意見を聞いて、合意形成を図っていく協調性・リーダー性・調整力だと言われています。本校がすべてのコースでクラブ活動を認めているのも教科の学習だけではなく、学校行事やクラブ活動、ボランティア活動等さまざまな体験学習を準備し生徒に成功体験を積み重ねさせる中でこれらの力を育成していこうとしているからです。

特に子どもたちの生活の基盤となる「クラス」において互いに助け合う精神の確立が大切だという認識のもとに教育活動を行っていきます。

ア、ボランティア活動やセレッソとのサポーターズマッチ、エコ活動、地域清掃活動を通して社会への関心を高めるとともに奉仕の精神を育成します。

イ、クラブ活動を活性化させ、勝利をめざし努力する過程で持続力や耐性を養い、仲間と協力しあう姿勢(協調性)を育成します。

ウ、体育大会や文化祭等の行事を通して他者への思いやりや自分の意見をわかるように相手に伝える力(コミュニケーション能力)、調整力を育成します。

エ、日々の授業に対する姿勢こそがクラブ活動での「集中力を養う最適の手段」であり、学習とはたんなる教科の授業だけではなく、クラブ活動・奉仕活動・学校行事への取組等すべてを含み向上していくものだとことを教えていく。

2 保護者に信頼される学校づくり

(1) 保護者への情報提供

公立小中学校と違い「校区という地域」を持たない高校は、保護者との連携をいかに図っていくかが大きな課題といえます。そのためには子どもたちが担任をはじめ教職員を信頼し、学校生活を充実して過ごしている姿を保護者が感じることができるようにならなければなりません。また、「進学校」として進路指導を充実していくことも欠かせません。成績懇談や保護者集会を充実し、生徒や保護者が知りたい情報発信となるように情報の質を高めていきます。

ア、保護者の学校への信頼度(生徒・保護者へのきめ細かな対応と学校生活の充実)を高めていきます。

イ、学校からの情報発信力を高め、ホームページの閲覧者数を向上させ、開かれた学校づくりを通して保護者との信頼関係を深めます。

ウ、成績懇談や進路ガイダンスを充実し保護者・生徒に質の高い豊富な情報を発信し幅広い選択肢の中から進路を決めていくことのできる環境づくりに努めていきます。

(2) 危機管理体制の確立

地球温暖化の影響から豪雨・巨大台風の上陸をはじめ、いつ来るかも知れない地震への対応を考え、生徒の安全を第一にした防災体制を構築していくことが求められています。このため、交通機関が遮断されたり、大和川の水位上昇で帰宅困難となった場合の対応を関係機関と連携し構築していきます。

ア、避難訓練(火災時の避難経路と地震時の避難経路の区別)を通して集団で避難するときの心得を育成し、災害に備えます。

イ、学校として帰宅難民となる生徒が出た時を想定した避難物資等の準備体制や保護者との連絡体制を整えていきます。

また、日々の教育活動の中で「危険予見義務」と「危険回避義務」を教職員の使命との認識を深め、事故防止にも努めていきます。教職員賠償保険や第三者賠償保険にも加入して教職員の法的な意識向上に努めます。

【自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

〈自己診断の結果と分析〉

1 基本的な生活習慣の確立

保護者アンケート「生活指導は充実していて規範意識と自律性の育成に十分な効果をあげているか」という質問は 58 指数となっている。60 あれば十分な信頼を得ている指数なので A 評価に近い信頼を得ている。保護者が本校の教育に期待している項目に「自主自律の姿勢の育成」が入っているのと一致している。また、「本校の特色は何か」という質問で「子どもたちがいきいきと学習や部活に取り組んでいる」がトップとなっているのも本校の保護者の大半が子どもの学力向上・進路保障だけでなく本校の教育目標の「社会に貢献できる青年の育成」に賛同していることが分かる。

この目標達成のために「遅刻」「服装」等のルールの遵守を指導目標としてきましたが、目標数値には達していませんでした。今後も遅刻指導については、高校生ともなれば自分で時間管理が出来なければならず、親に頼ってはいだめだということを機会あるごとに該当生徒やクラス指導で訴え、「遅刻は他人の時間を奪う行為」という意識の定着を図って行きます。

いじめ行為は、保護者アンケート「いじめがなく安心して登校できる」との回答指数が 81 指数となっていますが、油断することなく早期発見を目指して 5 月と 11 月にアンケート調査・教育相談を行い、クラブにおいても練習終了後、着替えた後のミーティングで生徒の様子を観察するように教職員を指導しています。さらに、生活指導の事例を職員朝礼時に話し、日々注意喚起を教職員にする中で教員の生活指導力の向上にも努めてきました。

一方、学校現場を悩ませている SNS については、次年度より i-pad を利用した教育活動が実施されることもあり、「ソーシャル・メディア・ポリシーの確立」に向けて取り組んできました。その結果、昨年度に比べ SNS の書き込みによる処分者は大幅に減少しました。

2 学力向上と進路実現

保護者アンケート「どのような進路の実現を望んでいるか」の回答の 80% が「4 年制私立大学」となっている。しかし「進路指導が充実していて生徒の進路指導の発見・実現に十分寄与している」という回答指数が 46 となり 60 に達していない点は今後の反省材料と受け止めている。

以上の進路実現のためにも学力の向上を目指す必要がある。日々の授業がこの鍵となる。学力向上に大きく寄与する「先生の好感度」については、改善すべき点が明確に示されていたため後半の調査では大幅にアップした。しかし、学力向上実感(この授業を受けて学力があがったと実感できるか)については、改善点が示されているにもかかわらず、自己改善が出来ず、マイナス評価となっている教職員がおり、全体の評価を下げている。保護者アンケートの「子どものやる気が引き出され、学習活動に前向きに取り組んでいるか」の指数も 42 となり 60 指数には達していない。

ハード面では、今年度中にすべての教室に電子黒板を設置するとともに

【学校協議会からの意見】

1 基本的な生活習慣の確立

- 遅刻をするなど言うより「朝の時間の活用」(1 時間いつもより早く起きて人文したいことのために時間を使う等)を考えさせることも必要。
- 昨年度も意見を書いたが「遅刻指導」は学校ではなく家庭の仕事。
- 睡眠と朝食の大切さを知らせていくことも必要。
- 先生がいないときは、ルールを守ろうとしない生徒が多いのは、今に始まったものでもない。だからこそ、「教え続ける」地道な声掛けが必要。あきらめずに頑張ってください。
- 高校なのだから本人に自覚を促すことが大切。親の出番は出来る限りなくしていくことも大切。最近の親は前に出過ぎ。心配なのは分かるが。
- いじめ事象は中学校と違って「処分される」というペナルティーがあるので減少するのは当然だと思う。
- いじめ事象が少ないことは先生方の指導が行き届いていることだと思います。
- 小中学校までは SNS の使い方について指導しても違反した場合に子どもに与えられるペナルティーがないために中々指導が入らなかったと思う。高校になると社会に出た時にいろんな支障が出ることを教えて自制させることができるのではないかなと思う。
- 「家庭のしつけ」が行き届いている生徒が増えてきたから、挨拶もいじめも減少してきていると思う。ここでさらに教えていただきたいのは集団の中でどのように人間関係を築いていけばよいのかと言う点だと思う。いまや子ども集団は地域にはなく学校にしかありません。人間関係が崩れた時の対処の仕方も教えてほしいと思います。
- 今や集団の中で自分の立ち位置をどう探すか、人との付き合い方(間の置き方等)を指導できるのは学校しかないと思うので親も学校と協力してご友の成長を促すように働くかけが必要だと思う。社会人となって生き抜くためには学生時代のトラブル解消法を学ばせることが大切。

2 学力向上と進路実現

- 学力を上げるのは自分自身だがそのきっかけを作るのは指導者としての先生の人間性だと思う。また、つまづいた時に解決するのは自分自身だと思うが乗り越えるきっかけは先生のアドバイスだと思う。勉強するきっかけとさらに向上するきっかけを作ってくれるのは学校の先生だと思う。これはクラブ指導でも同じだと思います。権力ではなく権威を持った先生がより増えることを願っています。
- 学校教育と言うのは教科の勉強はもちろんですが、いろんな子どもたちに先生がどのように言葉をかけて指導しているのかを見せることを通して子どもたちに人と人の関わりを教えることだとも言えます。この意味で先生は生徒から常に見られ、評価されているとも言えます。
- 高校生になったら「授業を聞いていたら分かる」と言うのではだめで、一生

| | |
|--|--|
| <p>スタディーサプリ、英語サプリを導入し、自学自習を促し学力向上を図っていきます。</p> <p>また、進路指導については、十分な力がありながら、3学期の一般入試まで待つことができず、安易に推薦入試を受けて早く進路を決めてしまうという流れを少しは食い止め、関関同立等の進学実績が伸びた原因となった。次年度は、進路指導部より一般受験で本当に行きたい大学に行くように指導を繰り返していきます。このため、今年度は「進路だより」発行や1年のうちからの進路指導部長による進路講話などを重ねてきました。この結果が保護者アンケート「入試情報や進学指導情報が保護者に伝えられているか」の指数が45と名昨年よりも向上した。</p> <p>3 社会に貢献できる資質の育成</p> <p>本校は、すべてのコースで「勉強とクラブ活動の両立」を奨励しています。また、学芸手帳を作成し自学自習の精神のもと自ら「時間管理」と「計画性」を育成する一助としています。今年も昨年度に引き続き、大阪マラソンへのボランティア協力も実施でき、子どもたちの心に「奉仕の精神」を醸成できたと考えます。クラブ活動についても作法室(和室)を造り、附属中学校生徒の書道・茶道等のクラブを発足しスポーツに偏りがちなクラブの活性化も図ることが出来ました。行事についてはスポーツ大会、文化祭とともに学年縦割りで行う体育大会を通して学年を超えた一体感を創っていくことができました。</p> <p>4 保護者への情報提供</p> <p>保護者アンケート「学校のホームページは充実していて必要な情報を得ることができる」の回答は64指数となりA評価となっている。また、保護者にとってイ版の情報下となるクラス担任についても「担任は相談しやすく、親切に対応してくれる」という保護者会等も77指数を示しA費用書き順60指数を大きく超えている。高校は、地域という「校区」を持たないため、学校から保護者への情報発信のあり方が保護者との信頼関係を築く上で非常に重要なものとなります。これらが「知り合いや親せきにこの学校を進めたい」という回答62指数となって現れている。</p> <p>ただ、「授業参観や懇談会は適切な頻度で行われており、学校の様子をうかがい知る機械として機能している」が56指数と60に少し届かなかった点は今後の課題として受け止め改善を図っていく。</p> <p>5 危機管理体制の確立</p> <p>本校は大和川以南からの通学者が多く、豪雨による氾濫・通行止めにより帰宅困難となる生徒が3分の1を超えます。このため、昨年度に引き続き4月より各自に教室保管用の避難物資を購入し、その対応を図ることが出来ました。</p> | <p>懸命聞いていても「分からないところがある」と言うのが高校の授業の姿だと思ふ。だから「予習や復習などを計画的におこなわなければならない」という自覚が生まれてくる。分からないところを授業の中で作り出す「不親切さ」も必要。分かる授業は中学まで、高校でそれをやると「甘え」がはびこると思いますがどうですか。</p> <p>○ 電子黒板が設置され、タブレットの導入も進めていると聞きます。先生も新しいことに挑戦しなければならないのは大変だと思いますが、がんばってほしいと思います。</p> <p>○ 進路面での意識を高める点が弱いと思う。外部の就職コンサルタントなどの人材を呼んで生徒に関わらせるのもいいのではないかと。</p> <p>3 社会に貢献できる資質の育成</p> <p>○ 社会に貢献する意識は、目の前に落ちているゴミを拾える人を育てること。この精神をもとにさらに学力をつけることが大切。学力肉して社会に貢献などできない。しかし、学力があっても平気で道端にゴミを捨てる人間を作ってはならない。</p> <p>○ 学芸が行っているボランティア活動を通して社会貢献の心は育つと思う。大阪マラソンなどでの活動やセレッソとのサポーターティングマッチの取組は良いと思う。</p> <p>○ 特にこれをやらないと貢献性は育たないわけではなく、行事などに積極的に取り組む姿勢を育てたらよいと思う。</p> <p>4 保護者への情報提供</p> <p>○ 情報提供は一方通行であってはならない。保護者が情報を待つのではなく、積極的に学校との連携を行うべき。情報が無いという親に限って学校に非協力的でPTA活動にも参加しない。</p> <p>○ SNS等の進展でリアルタイムで情報が入る世の中になっているが、学校の担任との情報は俊次には入らない。担任が連絡した時は親がおらず、親が連絡した時は授業中等のことも起こる。</p> <p>○ 高校生なのだから学校の子どもの生活についての情報はそんなに必要ではないのかと思う。むしろ、親が必要なのは進路情報だと思うのでホームページ等を利用していつでも情報を得られるように工夫してほしい。親にだけ閲覧できるIDを付与してもらおうとか。</p> <p>○ 業者からの進路情報の提供も良いが先生方からの「生の声」も聴かせてほしい。</p> <p>5 危機管理体制の確立</p> <p>○ 継続して各教室に災害避難物資を置いたのは良いと考える。また、それらの物資に対するいたづらがないのは子どもたちの意識の高さだと思う。</p> <p>○ 昨年も言ったが、地震で水道水が止まった場合のトイレの水の確保についても各校舎の下に雨水をためる工夫等はできないものか。井戸を掘る、雨水をためる等。</p> |
|--|--|

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|--------------|---|--|---|---|
| 1 基本的生活習慣の確立 | <p>1 規律ある学校生活の確立</p> <p>(1) 規範意識と自立性の育成</p> <p>(2) 学級集団の育成</p> <p>(3) 教職員の危機管理能力の育成</p> <p>以上の三項目を達成する中で学習環境を整え学力向上をめざします。</p> | <p>「面白ければよい」と「ノリ」で発言・行動する風潮、子どもの自立を阻む保護者の言動に歯止めを掛け自立した社会人としての成長を促すことが急務となっています。特にツイッター等の使用方法の間違いや「いじめ事象」に発展しないように「考えて行動する習慣」の確立を目指します。</p> <p>(1) 遅刻防止週間・服装違反撲滅週間等を定期的に実施し、生徒の規範意識向上を図ります。</p> <p>○ 指導カードの発行による啓発</p> <p>(2) 「いじめアンケート」を実施し、担任・学年主任・生活指導部・管理</p> | <p>(1) 基本的な生活習慣確立のため各学年共に「一人あたりの遅刻回数」を1年2、2年3、3年5回以内とします。</p> <p>(2) 「先生がいなくてもほとんどの生徒は服装・持ち物などのルールを守っている」という指数を40以上とします。</p> <p>(3) 担任は①「生徒の態度や行動が間違っているときはきちんと叱ってくれる」や②「自分のクラスは規律ある雰囲気の中で生</p> | <p>(1) 1年2.77(昨年度2.75)、2年3.86(5.48)、3年5.7(7.53)という結果となった。昨年度よりも改善されたが目標達成には届かなかった。「遅刻は時間泥棒」という視点から保護者との連携を密にし指導を継続していく。</p> <p>(2) 1年39、2年35、3年55と高い肯定指数となっていることから規範意識は向上してきている。より高い質の意識向上を図るためにボランティア活動等にも力を入れていきたい。</p> <p>(3) ①1年48、2年44、3年49で60指数には至っていない。一方、まったく叱っていないかと言うとそう感じている生徒は1指数で生徒の心に入る指導までは至っていないことが分かる。②1年80、2年83、3年90と学年が上がるごとに指数もよくなっ</p> |

| | | | | |
|---|--|--|--|---|
| | | <p>職による点検で共通認識を図りいじめを許さない学校づくりに専念します。</p> <p>○いじめ対策委員会の実施</p> <p>(3)学級の係活動や清掃活動を協力して行う雰囲気を作り真面目な生徒が損をしない、担任に不信感を抱かない学級づくりを行います。</p> <p>○教室の環境整備</p> <p>(4)生徒指導についての研修を実施します。</p> <p>○教育裁判で争われている事件・事故の事例を職員会議で示し教職員の学級経営や生活指導について研修を赤めます。</p> | <p>徒たちが過ごせている」という指数を 60 以上とします。</p> <p>(4)学級経営において「生徒間のトラブルは少なくクラスメートを大切にす風土がある」という指数を 60 以上とします。</p> <p>また、学校生活全般を通じて「この学校には、いじめは少ない」という指数を 60 以上とします。</p> <p>(5) SNS への不用意な書き込みや人権を侵害する書き込み「0」(ゼロ)を目指す。</p> <p>(7)「教育裁判の事例から学ぶ」をテーマに事例報告を職員会議時に行っていきます。</p> | <p>てきている。</p> <p>(4)いじめのないクラスという評価では満足度指数が 34 と高い数値を示している。また、良い友人に恵まれていると言う指数も 56 とする高水準となっている。教師側の気づきと情報交換を高め地衣佐野ことを放置せず、主任を中心に学級・学年経営を進めていく。</p> <p>いじめが少ないと感じている生徒も学年が上がるにつれて指数が高くなる良い傾向が見られる。</p> <p>(6)SNS への不用意な投稿、いじめにつながる投稿は入学後は多くみられるが学年が上がるにつれて 0 になっている。</p> <p>(7)職員朝礼や職員会議を通し裁判となっている事例から学ぶべきことを説明し教職員の危機管理能力を高めてきた。</p> |
| <p>2 学力向上と進路実現に向けた取り組み</p> <p>(1)生徒による授業満足度の向上</p> <p>○ 授業アンケート・相互授業参観</p> <p>○ 教育のデジタル化 電子黒板とタブレット利用の促進</p> <p>○ 英語教育の改善</p> <p>(2)自学自習の態度を養成し意欲的に学習する姿勢を身につける。</p> <p>○ スタディ・サプリ・管理自習室の利用促進</p> <p>○ 英検・漢検等資格試験受験の促進</p> <p>(3)希望進路の発見と実現に寄与する。</p> <p>○ 国際理解教育の促進</p> <p>○ 多様な講習の充実</p> <p>2 学力向上と進路実現</p> | <p>中堅進学校に位置付けられ、保護者の願いも「4年制私立大学への進学」となっている現状を考えると教師の授業力向上は本校教育の根幹をなすと認識しています。</p> <p>また、成熟した民主主義社会は「選択と自己責任」の社会と言える以上複雑化する大学入試の情報提供は欠かすことができません。</p> <p>授業力評価のアンケートを分析すると授業を受けて「学力向上実感」があると評価された先生は「好感度」においても高い数値をあげています。この保護者の信託に応えるために次のような取組をおこないます。</p> <p>(1) 授業力の向上をめざし、7月実施の1回目の授業評価で「何が評価を下げる原因となっているのか」「どの点を改善すればよいのか」を自己研鑽させます。また、相互授業参観(6月、11月)、ベテラン教師による若年教師の指導を充実します。特に新任講師に対しては、授業参観・レポートを作成させ教科での指導を充実します。</p> <p>また、主任を中心に担任・教科担任がクラスの授業の状態を把握し、問題がある場合はすぐに改善策を打つ体制を整備します。</p> <p>(2)デジタル教科書が急速に普及してくることに対応して全館整備が終了した電子黒板に加え、i-pad を利用し授業改善に取り組む。</p> <p>(3)英語改革に対応し英語教育研究会を立ち上げ本校の英語教育について見直し改善を図る。</p> <p>(4)スタディ・サプリを導入し生徒</p> | <p>(1)相互授業参観を実施します。</p> <p>授業アンケートを実施し次の項目のプラス指数を向上させます。</p> <p>(2)教員の「好感度指数」を 60 以上とします。</p> <p>(3)「先生の授業を受けることにより学力や知識の向上を実感できる」という学力向上実感指数を 60 以上とします。</p> <p>(4)クラスにおいて「授業時間は集中して授業を受ける生徒が多い」という指数を 60 以上とします。</p> <p>(5)「今の学校は希望進路の発見や実現に役立っている」という指数を 40 以上とします。</p> <p>(6)「入試や進学に必要な情報が十分に提供されている」という指数を 40 以上とします。</p> <p>(7)「進学講習が学力の伸長につながった」という指数を 60 以上とします。</p> <p>(7)「明確な目標がありその実現に向けて前向きに取り組むことができている」という指数を 60 以上とします。</p> <p>(8)電子黒板を利用した公開授業、タブレットを使用した授業研究を年 2 回実施します。</p> <p>(9)英検準 2 級以上の資格保持者 25%以上とします。</p> | <p>(1)教員の授業力向上は私学の命運を分ける最重要事項です。このため、相互授業参観を「授業参観シート」を利用して実施しました。今後は「週間」だけ手なく互いにコミュニケーションをとって日々授義用を点検試合高め合う機会を作ることが大切だと考えています。</p> <p>(2)教員の生徒からの好感度と学力は比例するものです。平均好感度は全国水準の 66 指数に対して本校は 70 指数となっています。</p> <p>(3)学力向上実感は 41 指数となっています。落ち込みのある教員が平均を下げています。指数的に気問題はありますがさらなる向上を図るために教科会等の充実が急務だと考えています。</p> <p>(4)指数としては 1 年 24、2 年 14、3 年 29 となり、B 評価となる。</p> <p>(5)保護者が 47 指数の人たちが肯定的意見を述べている。目標は達成できたが全アンケートの 4%にあたる 59/1553 が否定的意見を述べているのでさらに啓発は必要だと感じている。</p> <p>(6)肯定的意見に回答してくれた保護者は 58 指数となっている。否定的意見は 23/1553 となった。この否定回答者を減らすためにさらに丁寧な説明と情報を提供していきたい。</p> <p>(7)講習については、次年度の学年につなげていく意味から来年度は 3 学期 3 月に設定(今までは 7 月)指定苦闘の改善を聞かしていきたい。</p> <p>(7)しっかりと目標を持ってとのくんでいる生徒は 1 年 216/618、2 年 198/533、3 年 404/636 と 3 年になると肯定意見が増える。しかし、現在の、社会問題化しつつある「大学中退問題」を考えると 1 年から目標を考え、1 年から 2 年に上がる時に目標設定できている状態を作る必要があり、それに向けた取り組みを進路指導部を中心に行っていく。</p> <p>(8)電子黒板の整備を完了し、次年度に向けてタブレットを利用した授業改善に取り組む。</p> <p>(10)英検準 2 級以上の合格者は 69 目と中々目的達成まで道のりはある。しかし、実力があっても受験</p> | |

| | | | | |
|---|---|---|--|--|
| | | <p>の学習環境を整え自学自習を推進する。</p> <p>(5)英検・漢検等の資格取得者を増やしていく。</p> <p>(6)生徒のニーズの高い1年留学制度をさらに整備・充実する。</p> | <p>(10)電子黒板、タブレットを使った公開授業を実施します。</p> <p>(11)スタディー・サプリの初期設定ログイン 95%を目指します。</p> <p>(12)管理自習室の月利用者数を500、サテネット室利用者数を月350以上とします。</p> <p>(13)英語教育改善の方策を打ち出します。また、1年留学制度の整備充実を図ります。</p> | <p>をしない生徒が多く、その原因はクラブ活動にあると文ら記している。</p> <p>(11)本校の教育の柱となる「自学自習」を進めるためのスタディー・サプリのログイン数は98.15%となっており当初の目標は達成されている。</p> <p>(12)管理自習室の利用者は月424人となっている。年々利用者は増えているが、目標の500人には達しなかった。サテネット室の利用者も月343人平均で目標には少し及ばなかった。</p> <p>(13)現在、大阪教育大学の教授を招き研修会を行っている途上にある。1年留学についてはカナダとともにこの春からニュージーランド留学を現地学校と直接交渉して進めている。</p> |
| <p>3 社会性の育成</p> <p>(1)助け合う雰囲気あふれるクラスづくり</p> <p>(2)部活動の活性化</p> <p>(3)ボランティア活動の充実</p> <p>(4)学校行事の充実</p> | <p>学校教育の目的は、教科指導による学力の向上とともに多様な体験活動を通して集団の中で協調性や耐性、社会性を育てることも大切な使命です。本校が「両立」を合言葉にすべてのコースで部活動を可能としている理由もここにあります。</p> <p>(1)クラス経営力を向上させるため学年会での相互点検・改善を進めます。</p> <p>(2)クラブ活動の成績と普段の学校生活は密接に関係することを指導しクラブと学習の両立を図ります。</p> <p>(3)ボランティア活動の充実 地域清掃が集う、大阪マラソンボランティア活動への参加、セッション大阪とのサポーターティングマッチへの参加を進めます。</p> <p>(4)生徒の自主性を育てる学校行事を促進します。</p> | <p>(1)①「クラス全体の結束力が強く行事の中で達成感や一体感があると感じる人が多い」②「困っているクラスメートがいれば誰に対しても手助けをする生徒が多い」という指数を60以上とします。</p> <p>(2)「」クラブ活動についても明確な目標があり、その実現に向けて前向きに取り組むことができている」という数値を60以上とする。</p> <p>(3)「学校はいろんなことを体験させてくれる」「体育大会や文化祭も楽しい」という指数を60以上とします。</p> | <p>①1年32、2年35、3年54指数という結果が出た。3年の結束力はa評価の60指数に近い。学年が上がるごとに高い指数となっていることが分かる。</p> <p>②1年34、2年39、3年29指数となっている。3年の落ち込みが分かった。いずれもB評価止まりになっている点を考えると生徒たちへの心の教育の必要性を感じる。しかし、個々の生徒は親切心があるが、雌雄団となるとなかなか手助けしにくいという面もあるのでこれをもって道徳心がないとは言えない。</p> <p>(2)1年57、2年56、3年64と言う指数結果が出た。昨年と比べ数値は良くなっているが、全学年60指数以上にはならなかった。</p> <p>(3)生徒も保護者も60を超える指数を出している。年々、子どもたちの質は良くなり、何事にも熱心に取り組む生徒が着実に増えてきている。ただ、生徒数に比較して学校施設が手狭なために十分な活動ができない面も否めない。このため、他の施設を借りてでも生徒たちの満足度を高める努力を今後共に続ける必要がある。</p> | |
| <p>3 保護者との信頼関係の醸成</p> <p>(1)保護者と信頼関係の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ホームページの充実 ○ 学芸新聞の発行 ○ 進路だよりの発行 <p>(2)進路情報の発信</p> <p>(3)防災教育への取り組み</p> <p>3 信頼される学校づくり</p> | <p>高校は公立小中学校のように地域を校区として持たないために保護者への情報発信(学校生活充実度と進路情報の発信度)が信頼関係を築いていく上で大切な要素となっています。また、防災訓練等の安全生活に対する取組も緊急の課題であるという認識しています。</p> <p>(1)担任のきめ細かな対応 体罰・暴言のないクラス・クラブ経営と教科指導を確立するための職員会議等を通じた啓発活動を進めます。</p> <p>(2)ホームページの充実 ニュース、トピックスにて発信内容を周知する。</p> <p>(3)授業参観や進路・生活指導についての保護者集会を充実 教員と保護者の距離感を縮め話しやすい環境づくりを行います。</p> <p>(5) 学芸新聞の発行</p> <p>(4) 防災教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○避難訓練(火災時と地震時に分 | <p>(1)「入学前と入学後の学校のイメージは子どもに聞くと良くなった」という数値を60以上とします。</p> <p>(2)「知人や将来は子どもに本校を紹介してもよい」という数値を60以上とします。</p> <p>(3)担任は「生徒に対する言葉遣いや態度は丁寧で適切であると感じることが多い」という数値を60以上とします。</p> <p>(4)「学校は一人ひとりの生徒を大切にしてくれる」という数値を60以上とします。</p> <p>(5)学校からの情報発信源となるホームページの閲覧数を22,000/月以上、直帰率を17%以下とします。</p> <p>(6)進路部長からの保護者対象の進路講話の充実と</p> | <p>(1)「この学校に入学させて良かった」と言う保護者の意見が全体の77%となった。否定的意見は4%となっている。さらなる改善点を教育相談等を通して下がり改善していく。</p> <p>(2)全他の80%近井保護者が肯定的な回答を出してくれた。ただ、1539の回答の中で48人が否定的回答をしている。この点についても改善策を映くっていききたい。</p> <p>(3)1年38、2年34、3年47という指数(肯定回答ー否定回答の割合)が出ている。B評価と言う結果となった。教育とは難しいことを「易しく」、易しいことを「深く」、深いことを分かりやすくおしえることという視点に立って教材研究に励むとともにきめ細やかな生活指導を採卵指揮しておこなうひつようがある。</p> <p>(4)全体として43指数となった。</p> <p>(5)ホームページの閲覧者数の月平均が30,133回となり目標を大きく上回った。情報提供については68%の保護者から肯定回答をいただいたが、5%の保護者(72名)からは否定回答となった。</p> <p>(6)進路部長による講話や進路だよりを通して保護</p> | |

| | | | | |
|--|--|----------------------|--|--|
| | | けて)の実施と防災備品の整備を行います。 | 進路だよりを発行します。 (7)大和川決壊や地震等災害による帰宅困難者対応を行います。 | 者への啓発が十部にできた。 (7)災害避難物資もすべての生徒に配布し教室保管することができた。 |
|--|--|----------------------|--|--|